

# 学園総合

Contents

- 高校／創立以来、最高位の成績を収めた陸上部
- 中学・高校／親鸞聖人750回大遠忌法要を挙行
- 学園／「福岡県子育て応援宣言企業」などに登録
- 大学・短期大学部／筑女フィル、今年度もアクロス福岡で公演

高校

## 創部以来、最高位の成績を収めた陸上部の2011年

### インターハイ総合3位、 国体、新人戦での快進撃

今年度は有望な新入生が8名入部。『愚公移山』(難行といえる大きな目標も怠らず努力すれば成就する)をモットーに、そして筑女の伝統である「チームの結束力」を武器に、「全国高校駅伝競走大会での全国制覇」を目指し、総員21名でスタートを切りました。

その皮切りとなった8月のインターハイ(岩手)では、中長距離ブロックより3名が5種目に出場し、木村友香(2年)が1500mで2位、3000mで3位(日本人トップ)、由水沙季(1年)が800mで6位に入賞し、総合成績では短距離ブロックの福岡美和子(3年)が800mで5位、前川萌那(3年)が7種競技で7位の健闘もあり、総合の部・トラックの部ともに3位と、創部以来最高位の成績を収めました。選手一人ひとりのモチベーションの高さと日々

の努力が実を結んだ賜物であり、大収穫の大会となりました。この勢いは止まることなく、秋の国体、新人戦へと続きました。国体においては木村が少年女子A3000mで優勝、由水が少年女子B1500mで2位、福岡が少年女子共通800mで優勝と同一県だけでなく、同一校で上位を占めることは快挙といえます。また九州新人戦においても、双子の山下姉妹(1年)が800mで1位・2位と好成績を収め、今後の活躍が期待されます。

### 3年ぶり、 19回目の出場を 果たした 全国大会

そして10月30日に「女子第23回全国高等学校駅伝競走大会」の県予選大会が開催され、大会新記録で優勝を果たしました。5人中4人が区間賞をとる大健闘のレース展開で、「都大路」への切符を



▲駅伝全国大会の試合前に気合を入れるメンバーたち。

勝ち取りました。その県大会終了後、主将の佐々木伽歩(3年)が足を痛め、約1カ月間走れず、大会への出場が危ぶまれましたが、何とか復帰でき、ベストメンバーで12月24日の全国大会を迎えました。

5年ぶりに県大会を制し、3年ぶりに出場した「都大路」。全国の舞台に立つて走れる喜びと、全国でも優勝するという強い気持ちで臨んだ全国大会。選手たちは大会前までリラックスしておりましたが、

前日の練習、開会式と他校の選手の中に入るたびに緊張も増してきた感がありました。その緊張感を力に変えることができずに硬くなり、レースも「平常心」を失い本来の力を発揮することができませんでした。いくら勢いがあり、力を持っていても本番で力を出すピークパフォーマンスがでなければ勝てないと痛感し、全国大会の厳しさを知りました。振り返れば、勝

つための体力と練習と精神力の強化がまだまだ不足していたと思われま。結果1時間09分35秒の記録で第10位と大変悔しい結果に終わりました。この反省と悔しさと経験が、彼女たちをさらに成長させ、強い筑紫女学園高校陸上部「第二期黄金期」を築いていくものと確信しております。

大会に際しまして、支援者の皆様方より、物心両面にわたりご支援とご協力をいただきありがとうございます。また、精進会・後援会・送る会の皆様、本学園の先生方をはじめとする職員の皆様、在校生、OGの皆さま等々、多数応援に駆けつけていただき、感謝の気持ちで一杯です。これからも「素直さ」「謙虚さ」「感謝の気持ち



▲駅伝全国大会でスタート直後、勢いよく先頭を引っ張る木村友香選手(ゼッケン40)。

を持ちながら多くの方に勇気と感動を与える走りができるよう頑張っていきたいと思えます。  
【高等学校・陸上部監督／岩元 雅輝】

